

# ふれあい

## 主な内容

- 1P. 災の方でコロナウイルス災いを追い払え
- 1P. 事務局の一員として
- 2P. コミセン自主活動団体の今
- 2P. 自治会 活動状況紹介
- 3P. 地域のイキイキさん
- 3P. 私のひとりごと・地域のわだい
- 4P. お庭拝見・健康コーナー
- 4P. 歴史探訪

●発行所/ひたちなか市長堀町3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) ☎029-275-2671 ●発行責任者/坂井 久彦 ●編集/広報委員会

## 災の力で、コロナウイルス 災いを追い払え!!



昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため『芸能音楽祭』が中止。その他、各自治会の行事や部会行事も中止になる中、なかなか治まらないコロナ禍だからこそ「この災いを吹き飛ばそう!」と、西中根では1月17日に『どんど焼き』を行いました。

例年は参加者に餅やイワシを焼いて振る舞うのですが、今年は感染予防のため飲食は無し。有志のみの参加でしたが、燃え上がる炎に皆でコロナウイルス終息を願いました。



青竹を組んでやぐら作り



青竹に杉葉をくくり付けて  
火付け棒作り



竜のように燃え上がる炎



やぐらに火付け棒で点火



ライスセンター近くの田んぼで、持ち寄った正月飾りなどを  
やぐらに取り付けて、点火前に参加者の集合写真撮影

## 事務局の一員として



一中地区地域の  
ふれあいを広める会  
事務局員

風見 保

令和2年当初に、「一中地区地域のふれあいを広める会の事務局で仕事してみないか」と声をかけられました。  
仕事を離れてから5年以上が過ぎており、今更組織の中で務まるのかと不安がありました。地域のために少しでも役に立てばと、意を決して引き受けることにしました。

まず、年度初めの事業として定期総会がありますが、その頃は現在も続いている新型コロナウイルス感染予防のため、書面表決による開催となりました。

その後も主な事業である「運動会」「コミュニティまつり」「芸能音楽祭」が開催できず、自分ができることは何か、悩み続けた一年でした。コロナ禍のもと、コミセン利用者や自主活動団体が、少しでも安心して利用できるよう配慮してきました。

こういう中でも3密を避けながら、花苗の配布・地域美化運動や一度も途切れることなく広報紙を発行するなど、部会・委員会活動が行われたことに、明るい光を感じます。

一日も早くこの状況が改善されることを願い、地域の皆様のご協力を得ながら、当会の更なる発展に微力ながら尽くしてまいりたいと思います。



# コミセン自主活動団体の今 -ウィズコロナ-

今年に入って、県独自の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたため、昨年6月以降徐々に活動を再開していた自主活動団体の中には、予定を見直し自粛

するところが増えました。一方で「コロナを跳ね返せ!」と、元気に活動を続けている団体もあります。今回は、感染予防を徹底して活動する2団体を紹介します。



## 将棋同好会



同好の士15人が毎月第2・4月曜日、和気あいあいと将棋を楽しんでいます。昨年6月から活動を再開。マスク着用・手指消毒・部屋の換気のほか、相手との距離が近いので、できるだけ会話を控えるようにしています。

メンバーは幅広く、「関東アマチュア将棋名人戦」の茨城県予選準優勝者から初心者までいます。特に有段者が半数を占め、ベテラン層が厚くなっています。

対局はリーグ戦とトーナメント戦。優勝者には賞品が授与され昇級・昇段するため、皆真剣です。一列に並んだ将棋盤に対戦者が向かい合い、盤をにらんで指し手を熟考する様子に、かなりの熱気を感じます。段位者と級位者の対局では段位者が「駒落ち」(飛車・角・香車のいずれか1〜2駒を外す)で戦い、これにより戦力が伯仲し、ほとんど互角の勝負になります。また、初心者はベテランとの対局を通し、多くを学び取ります。

対局後は全体を振り返って、良かった手と悪かった手を述べ合う「感想戦」を行います。感想戦は以後の対局の参考になり、棋力向上にも役立ちます。

今後も親睦を深め、充実した対局を目指し活動していきます。



毎週金曜日の午後、9人で活動している社交ダンスのサークルです。健康維持・ダイエット・体力向上と、ダンスを始めたきっかけはそれぞれ異なりますが、共通点は「ダンスが大好き」ということです。

昨年6月から、マスクを付ける・換気する・こまめに消毒するなど、コロナ感染予防対策に気を配りながら練習を再開しました。ただ、男女がペアを組む形の“ホールド”では、直接組まず一定の距離を保って踊り、ラテンなど人と人との間がけられるダンスは片手を取って踊っています。まだパーティーの参加や発表会など今後の予定

## ダンスサークル「フリーズ」



は見通せませんが、いつでもすぐにうまく踊れるよう、ワルツやタンゴのステップの基礎を繰り返ししっかり、そして楽しく練習しています。

現在会員募集中、初心者大歓迎です。一度見学にいらしてください。お待ちしております。



## 自治会 活動状況紹介

### 防犯パトロールを実施

大平自治会

毎週月曜日の午後3時から、防犯パトロール隊が小学生下校時の見守り活動と、最終月曜日に地域内の巡視を行っています。今年も1月25日に、見守りのあと4班に分かれて担当地域を巡視。ごみ・不審物・不法投

棄物の收拾と、空き家の様子を見て回りました。

コロナ感染予防のため「会話は最小限に」という意識があるせいか、今まで小・中学生と交わっていた挨拶が減ったように思います。コロナの早期終息を祈るとともに、きれいで住みやすく明るい挨拶のできる地域を目指して、今後も活動を続けていきます。





## 地域のイキイキさん

健康な仲間づくり

富士山自治会

中村 陸子さん (83)



日本人の平均寿命は男性81.4歳・女性87.5歳で、健康寿命は男性72.1歳・女性74.8歳と言われています(2019年)。長生きをするのみでなく、自分の力で生活できる健康寿命が大切ではないでしょうか。この健康を維持するためには、日常の気配りが大切になってきます。

私は何年か前に推されて、県の福祉団体によるニューススポーツ研修会を1年に渡り受講しました。それは「いつでも・どこでも・誰でも」できる何種目ものニューススポーツでしたが、中でもお気に入りには前にも経験のある「グラウンド・ゴルフ」でした。このグラウンド・ゴルフは、生涯スポーツとして全国に普及発展し、関東大会・全国大会など盛んに行われており、私もその代表として参加した楽しい思い出があります。

ひたちなか市には、グラウンド・ゴルフの愛好者500人を超える会員の協会があり、会員による月例大会や誰でも参加できる市民大会などが開催されます。「健康なまちひたちなか グラウンド・ゴルフのまちひたちなか」を目指し、「みんな元気に仲良く和気あいあい」との合言葉のもと、楽しんでおります。皆さんも参加されてはいかがでしょうか。

愛称むっちゃん  
ご自慢のトロフィー  
(社)日本グラウンド・ゴルフ協会  
ダイヤモンド賞



平成27年第1回ひたちなか市グラウンド・ゴルフ普及指導員研修会にて



今からでも、日頃の運動習慣で「ロコモ」から抜け出すことができます。①開眼片足立ち②スクワット③ウォーキングやストレッチなどを無理なく取り組むよう、皆さんに推奨します。

協会が行った一般の高齢者とグラウンド・ゴルフ経験者とのロコモティブシンドローム「ロコモ」(運動機能・筋肉・移動機能などの低下)について比較調査の結果、日頃運動を重ねている経験者の方が、全ての面で優れていたとのことでした。

## 私のひとりごと

名前にまつわる小学校時代の思い出

東中根団地自治会長

伊野 昂

私の名前は「昂」。よく似た漢字に「昂」があり、「昂」はすばる。「昂」はたかし、どちらも口頭で説明しにくい字です。私の場合は「昂」と書いてたかしと読ませていますので、名前にまつわるいろいろなエピソードがあります。

私は戦前の昭和16年生まれ。人名に用いる読み方の規定に制限がなかったため、世相を反映し意気軒昂の「昂」をすばると命名したのか、「昂」の文字を申請したのか、なにせ80年前なので詳細は不明。人の名前にはどのようなルールがあるのでしょいか？人の名前について定めている法律「戸籍法」には、「子の名には、常用平易な文字を用いなければならない」(人名漢字)という定めで、読み方に制限はありません。

昭和22年4月、茨城県多賀郡多賀町成沢小学校に入学し、在籍期間中は黒板の右側の月日が書かれている下に「昂(たかし)」と注書されておりました。賞状をいただいた時にも、毎回「昂」と間違えて書かれていたと記憶しており、「昂」と「昂」の間で揺れ動かされた学校時代でした。

「昂」という文字が世の中に認知され名前に使えるようになったのは、谷村新司さんの歌が大ヒットして「昂」が人名漢字に登録された平成2年4月以降です。



## 地域のわだい

### 思い出の中根フェスティバル

中根小学校

今年度の「中根フェスティバル」では、「笑顔・絆・感謝でつながる中根フェス」というスローガンを掲げ、11月7日に学習発表会を行いました。低学年は、歌やダンスでかわいらしく場を和ませ、中学年は様々な楽器や身近なものを使っの合奏や合唱を行いました。高学年は、中根小の特色の一つである和太鼓の演奏や合奏、英語劇を発表しました。また、当日に向けて、学年ごとに巨大壁画(2m×3m)を制作しました。

感染症対策として規模を縮小した中根フェスティバルとなりましたが、児童は自分たちの頑張る姿を保護者の方々に見てもらうことができ、良い思い出となったようです。



中根太鼓を演奏



中根フェス1年生

### 環境美化活動

勝倉自治会長 大貫 英次

今年度は、ほとんどの自治会事業が中止になるなか、災害発生時に利用する「災害時避難場所」の草刈り作業を、各戸1名の参加で実施しました。また、勝倉には排水路が多くありますが、各戸の協力をいただき、水路両側の除草や、水路内にあるゴミなどの掻き上げ作業も行いました。

環境部会では、勝田橋近くの交差点にある植樹樹に花の苗を植えたので、ネモフィラなど春に咲きそろうのが楽しみです。

12月6日には地域清掃活動を実施しました。今後も環境美化に取り組んでいきたいと思ひます。



避難場所の除草作業



道路植樹樹の花苗植え

しんぐろそが

### 新宮素鷲神社元旦祭(初詣)

三反田地区

新年の幕開けは、三反田に鎮座する新宮素鷲神社での元旦祭です。今年は、近在の氏子の皆さんのなかにはコロナ禍で参拝を控えた方も多く、例年より寂しい初詣風景となりました。

その分、田村宮司の新年を寿ぎ、穢(けが)れ退散を祈る祝詞に力がこもりました。出席者はそれぞれにお祓いを受け、お神酒をいただいて、一年の平安、殊にコロナウイルスから解放されることを祈願しました。神事は3密を避け、少人数で細かく区切って繰り返し行われ、社殿には厳粛な空気が流れていました。



祝詞をあげる宮司



お祓いを受ける参拝者





門の上で松の枝がお出迎え (安さん 宅)



早春に花を咲かせた 白梅 と ミモザの花 (赤堀さん 宅)



25年前に植えた苗木が見事な庭木に (及川さん 宅)



赤い実をつけた千両と万両



いろいろな庭木や花にかこまれて (塙さん 宅)



玄関の両側にさり気なく置かれた花たち



たくさんの黄色い実をつけた金柑



シックな色合いのマンサクの花

## 健康コーナー

### ヘルス・ケア・センターの

妊産婦育児相談室をご存じですか  
〜妊娠から子育てまでサポートします〜

保健師 渡邊 理奈

みなさん、こんにちは。ヘルス・ケア・センターの保健師です。今回は妊産婦育児相談室の紹介と乳幼児健診・予防接種について、お話をさせていただきます。

妊産婦育児相談室は、母子健康手帳の交付から、産前産後の体のこと・心のこと、子育ての悩みなどを相談できる窓口になっています。保健師・助産師・看護師・管理栄養士などの専門的な知識を持つ職員が、妊娠から子育てまで安心して過ごせるよう、切れ目なくサポートします。

初めての妊娠・出産・子育ては不安もあるかと思いますが、一人で悩まず気軽に相談していただけたらと思います。相談内容に応じて利用できるサービスの情報提供を行い、必要に応じて地域の子育てに関する機関と連携し、サポートします。

また、新型コロナウイルスの感染を過度に心配して、かかりつけ医の相談や乳幼児健診・予防接種などを控えていないでしょうか。乳幼児健診は医師・保健師などに相談できる良い機会です。子どもの健康状態を定期的に確認し、育児で分からないことや悩んでいることは遠慮せず何でも聞きましょう。乳幼児の予防接種を遅らせると、免疫がつくのが遅れ、重い感染症になるリスクが高まります。また接種期間内の方は、お早めにお済ませください。

健康が気になる今だからこそ、早めの相談や対応をしましょう。

\*妊産婦育児相談室

専用ダイヤル

029-229-1157

\*ヘルス・ケア・センター

健康推進課

ひたちなか市松戸町

1丁目14番1号

029-276-5222



## 歴史探訪

### 腹切り佐七

享保期（1716〜1735年）の飢饉にまつわる伝説として、三反田村に「義民佐七」の話があります。

今から約300年前の享保年間、三反田村は冷害と風水害が激しく、特に那珂川の河口付近に位置することから、浸水の被害も甚大でした。そのため三反田村は、大飢饉に見舞われました。にもかかわらず、当時は年貢の取り立てが厳しかったので村人たちは食べる物がなく、飢え死にする者もありました。そのころの三反田村一帯の庄屋が平沢佐七。父は三衛門といい、佐七には妻と一男二女があり、代々庄屋を務めた名門の家柄でした。

佐七は飢饉の惨状を見て立ち上がり、藩に年貢の減免と常平倉（じょうへいそう）の開放を何度も嘆願しましたが、聞き入れられませんでした。常平倉とは飢饉に備えて米穀を貯蔵しておく倉をいい、それを開放するには藩の許可が必要でした。

佐七は、先祖伝来の宝物をことごとく売却して救済に当たりましたが、万策尽きたため藩に無断で倉を開放しました。こうして、中にあった稗（ひえ）を村人に分け与えて命を救ったのです。彼の行動は、藩の掟を破り大罪であることは明らか。佐七は自分の責任を自覚して、妻子4人を刺し殺し、自分も切腹して果てました。佐七の行動はこのため、「腹切り佐七」という悲しい話で伝えられています。

村人たちは、村を救ってくれた佐七に感謝し、一家の亡きがらをねんごろに葬りました。時が過ぎ、その場所は小さな塚があるだけでしたが、明治になってから参詣者が増え、佐七尊霊堂が建てられました。現在は、佐七山福道寺となっています。なお、享保年間に佐七が三反田村に実在したことが、飢饉に見舞われ年貢の取り立てが厳しかったことは、史料により明らかです。

#### 参考資料

- ・勝田市史（中世編、近世編）
- ・勝田市史（民俗編）
- ・茨城の伝説（今瀬文也・武田静澄共書）
- ・勝田の昔話と伝説（勝田市史編さん委員会）



250 回忌に建立された供養塔



#### 編集後記

新型コロナウイルス感染防止のため、各部会の活動が中止となり、今号には「部会だより」を掲載することができませんでした。

今年度はコロナに始まりコロナで終わった一年でした。来年度は、早く例年通りの行事や活動に戻り、その報告ができるようにと広報一同願っています。

